

ACN

REPORT

CONTENTS

I / 平成5年度種苗生産速報	2
II / 台湾魚類種苗生産探訪記	3 - 4
III / 新年挨拶・製品案内	4 - 5 - 6 - 7 - 8

新年のご挨拶

野性の世界に不況は無用

ACN代表 田嶋 猛

あけましておめでとうございます。

ウルグアイラウンド、政治改革、そして不況の1993年が過ぎ今年こそは
という気持で新年を迎ました。

トラフグ、ヒラメに代表される高級活魚消費は不況感から来る将来への不
安を反映し真っ先に出費の対象から外されました。しかし今の状況で泣き
言を言ってはいけません。

寸度、考えてみてください。『農家に比べ栽培漁業家、養殖業者はいかに
助成対策と無縁であったか』と、農産者は輸入禁止/輸入割り当て制度/植
物防疫法など多くの法律で十分保護されています。

だから今となって輸入自由化への対応にあわてています。一方、養殖業者
は「自由貿易の名の元でクルマエビ業者などは稚エビばかりでなく病気のおまけまで輸入したのではないか。」
と言われる程甚大な被害の中でも必死に耐え抜いています。

養鰻家は韓国に始まり台湾、中国そしてマレーシアなどの国々に対して不利な条件を技術力で補い現在で
も4万㌧の生産量と着実な利益を維持しています。

【何時までも止まない時化はない】の例えに希望を抱き野性の強味を自信として本年も斯業界は必ずや發
展すると確信致しております。

お陰様で私共【ACN、アクアカルチャーネットワーク】も本年で4年目を迎えました。交流・研鑽・研修
を重ね業界の発展に少しでもお役に立とうという意気込みで始まりましたが、研究会などの協賛などを通
じてどうにか皆様にも我々の存在もご理解されつつあるのではないかと思います。

日々ご苦労されております通り生産技術/流通/消費動向などを通して様々な課題がありますがそれゆえ先程
も申し上げましたが『パイオニア精神で成し遂げた喜び』も変え難い生きがいではないでしょうか。

皆様の仕事に少しでも貢献できるネットワーク作りをめざして研修会/展示会の開催、本紙の充実をメン
バー一同今年も取り組んでいく所存です。

皆様のご健康と共に、明るい展望の開ける年となりますことを祈って新年のご挨拶とさせていただきます。



I / 平成5年度種苗生産速報

シマアジ

■今年度のシマアジの種苗生産状況は、11月に4社が人工採卵を行い5社が種苗生産を行っている。

現時点では2社（k大学と1民間業者）が順調に推移しておりすでに沖出しを済ませている。沖出し匹数として150～200万匹と思われ、前年同時期と比較し沖出し匹数は若干少ない様だ。

しかし、1月より大手3社の採卵が始まり本格的な種苗生産はこれからである。種苗価格については最終的に昨年度25円/cmまで下がったことなどから、今年度は早期物でいくらの値が付くか注目される。

ヒラメ

■9月頃の成魚価格の好況を反映して受精卵の池入れは昨年より早く始まった。

しかし、11月中旬以降、成魚価格下落のため成魚出荷が停滞し、そのため稚魚の収容スペース確保ができず5cmupのヒラメ種苗の出荷に悪影響がでている。

種苗生産状況は良好な業者とそうでない所の差が明確にでている。価格は5cmup浜渡しで種苗生産業者手取り110円から、安いところでは60～80円もある。

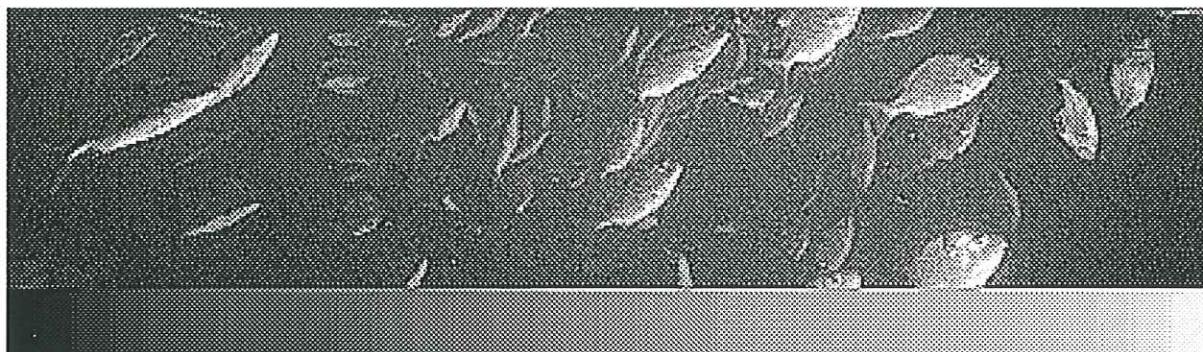
生産数量は昨年より減少しており昨年並みの養殖数量が必要となれば年明け2～3月に稚魚不足となろう。

マダイ

■ヒラメ種苗生産終了後、マダイの種苗生産というのが例年のパターンであるがマダイ種苗生産コストを下げるため（主として燃料代）10～11月受精卵を池入れした業者が本年は10社ある。

実際に販売にあたる今年の春までの沖出し後の歩留りが良ければ早期種苗として商品価値ができるものと思われる。

※その他輸入卵による中国スズキの種苗生産やトラフグの人工採卵の動向が注目される。



II / 台湾魚類種苗生産探訪記

重野 生郎

クロレラ工業

昨年の12月6~9日まで、台湾での営業 P R の機会を与えられ、太平洋貿易^{株式会社}の田嶋社長と同行で「台湾における魚類種苗生産視察」を目的とし訪問した。

クルマエビから魚類へ移行中

初日、中正空港にて現地の方の出迎えを受け台湾の水産概要の説明を受けるべく、基隆の「台灣省水產試驗場」所長の廖一久博士を訪問した。博士の話では、現在エビがかなり行きづまっており、魚類の種苗生産が活発になってきてクエ、ハタ類、サバヒ、中国スズキ、タイ（ミナミダイ、マダイ）などが種苗生産されているとの事であった。後日訪問したエビ養殖場では博士の言われた通り大半の池は水車が休止しており深刻な状況を物語っていた。

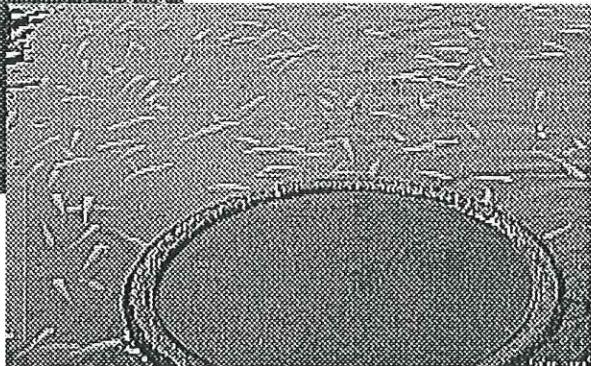
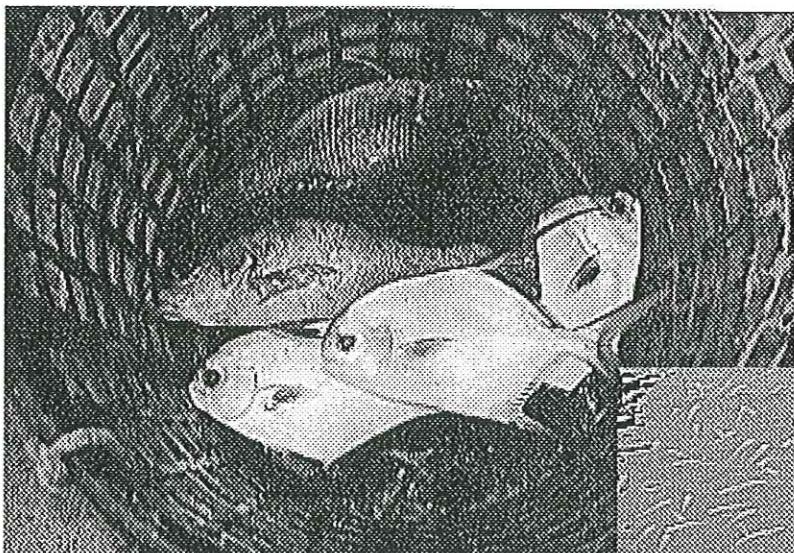


ヤマダイ（？！）実現

翌日、和歌山県、野口水産のマダイ受精卵にて種苗生産を行っている宜蘭の蘇氏を訪問した。施設は元クルマエビの種苗場であったものを使用し、清潔に保っていたのが印象的であった。

しかし私達の驚きはここから始まった。《その種苗場がなんと海岸より 1 km以上》も離れており、さらにいわゆる《沖だし》は、より山手のクルマエビ養殖場の 1 万 m²（水深 1 m）に 3 万匹の稚魚が泳いでいたのである。1993年4月のマダイ仔魚が現在 150~200 g サイズとなっており、別の池で養成中との事であった。

次に同じ宜蘭でアユの種苗生産を行っている高氏を訪問した。ここでもマダイ同様、クルマエビ養殖場を利用しアユの生産が行われていた。受精卵は日本からのもので種苗価格は日本円で 30~35 円で取り引きされ、養殖は台湾の内陸山地にて行われているとの事である。



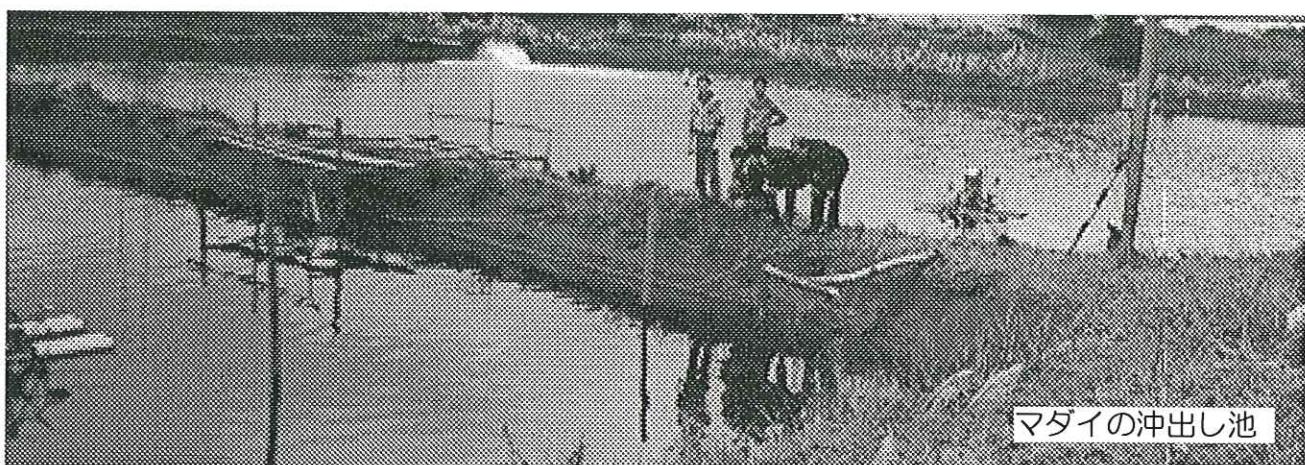
次の日、私達は高雄の南、東港の台湾省水産試験場東港分場を訪問した。分場では、蘇惠美博士の案内説明で同水試を見学した。次に屏東の養殖業者を訪問、そこは見渡す限りエビの養殖場であった。しかし稼働しているのは数ヶ所でまさしくクルマエビ養殖は壊滅状態である。

人気の中国スズキ

ここではクルマエビから転換して、昨年中国スズキの種苗生産で500万元（2200万円）の利益を得たという鄭氏を訪問した。

卵は12月下旬から1月まで、主として台中地区にて採卵され現地業者渡し60～65万円/1kg（62～65万粒）との事であった。現在、日本の業者が買い付けにきており価格が上昇傾向のようだ。

又、台湾でも中国スズキの種苗は人気があり35元（150円）/匹取り引きされたとの事である。♣



マダイの沖出し池

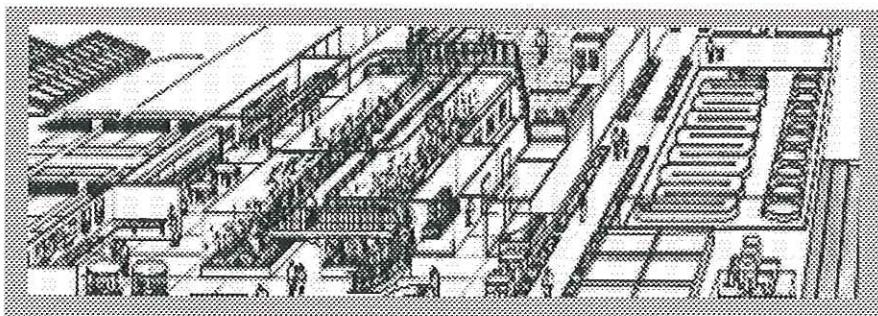
謹賀新年

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

1993年元旦

有限会社 九州海洋サービス

〒813 福岡市名島2-32-2 宮本ビル206 TEL 092(671)6313 FAX 092(671)6342



企画
設計
施工
アフター

- 施設基本/実施設計積算 ●システム設計 ●建築確認申請 ●設計監理
- 育成各種水槽/ハウス ■海水処理システム ■展示水槽施設
- ◆管理/施工/メンテナンス/アフターサービス

作業生産効率、コスト対策など今年も精一杯応援いたします。